

研究・調査報告書

報告書番号	担当
448	高崎健康福祉大学薬学部細胞生理化学研究室
題名 (原題/訳)	
Alcohol consumption and risk of cardiovascular disease and death in women: potential mediating mechanisms. 女性におけるアルコール消費と心血管系疾患の発症危険性と死亡：有力な仲介作用機序	
執筆者	
Djousse L, Lee IM, Buring JE, Gaziano JM.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Circulation. 120(3):237-244 (2009)	
キーワード	
アルコール、疫学、心血管系疾患	
要旨	
背景： 中等度のアルコール消費と、心血管系疾患（CVD）とその死亡の減少との間に関連性があることは報告されているが、その関連性の機序を説明するデータには限りがある。この研究では、アルコールと CVD および死亡との関連性を 26,399 名の女性で検討し、CVD/死亡の危険率を低下させる一連の中間因子の関与について評価した。	
方法と結果： アルコール消費は研究開始前調査の自己報告で、CVD イベントや死亡については追跡質問表と診療記録で確認した。また、ヘモグロビン A1c、炎症マーカー、止血因子、脂肪の血漿濃度を測定した。血圧と高コレステロール血症、高脂血症などの治療は自己報告で記録した。平均 12.2 年間の追跡調査の間で、CVD イベントは 1039 例、死亡は 785 例（CVD 死 153 例）であった。多変量モデルでの解析で、アルコール消費と CVD 発症率、総死亡数、CVD 死亡数との間に J 型の関連が認められた。非飲酒者と比較して、一日 5 から 14.9 g のアルコール摂取で、CVD (26%)、総死亡数 (35%)、CVD 死亡数 (51%) の危険性は低下した。CVD 危険率の低下に最も貢献しているのは脂肪 (28%) で、それに続いてヘモグロビン A1c/糖尿病 (25.3%)、炎症/止血因子 (5%)、血圧因子 (4.6%) であった。全ての仲介因子を総合することで CVD 危険率の低下の 86.3%、総死亡数の 18.7%、CVD 死亡数の 21.8%が説明することができる。	
結論： この研究の結果は、脂肪代謝と糖代謝に対するアルコールの効果が、中等度量の飲酒をしている成人女性でみられた CVD/死亡の危険率低下の多くの部分に貢献していると考えられる。	